

「～むかしの写真で、まちを再発見する～ ここダネ」

福沢市民センター

1 事業概要

この地域は高齢化が進み、地域住民の記憶や資料を未来に継承していく必要性を感じています。地域の昔を写した写真をもとに、地域に住む高齢の住民との対話から、当時の貴重な情報を得ること、また、高齢者と若い世代が写真を通してコミュニケーションを図ることで、地域の活性化につながると考えました。令和3年度は、青葉区中央市民センターの協力を得て、様々な事業実績のある「風の時編集部」と共催して本事業取り組みました。



2 今年度の活動



- ① 福沢地区の同じ場所で撮影された新旧の写真をロビーに掲示。
(令和3年12月1日～令和4年2月27日)
- ② 地域住民から提供された福沢地区の昔の写真を展示。
(令和3年12月1日～令和4年2月27日)
- ③ まち歩きと交流会「みつけた！教えて！まちの達人！」3回実施。
→親子3組を募集してまち歩きと写真撮影後、交流会を実施。
(令和4年1月16日・2月6日・2月27日)
- ④ 公開講座・記念公演「昭和時代の写真で見る仙台」を実施。
(令和4年2月17日)

3 成果と課題

自分たちの住む地域の今と昔の風景写真を見た参加者にとって、貴重な地域情報の収集の場となると共に、まち歩き実施後の地域住民同士の交流会も大いに盛り上げることができました。地域の新旧写真を比較することで、世代間のコミュニケーションが活性化できることが分かりました。

当時の写真資料を増やすために、写真の提供者をより多く募るための工夫等の課題がありますが、地域団体への協力を要請し、令和4年度は市民参画型事業として発展できるよう努めていきます。



4 今後の展望



昔の写真を展示したことで、自由来館者の中から自然と昔の地域の様子を語ってくださる方が、複数名現れました。その方々が、幅広い年齢の来館者に声をかけ、当時のことを生き生きと伝える姿は、正に「語り部」です。市民参画型事業としての可能性を感じました。また、地域との関わりが深い仙台鉄道の写真から新たな講座を設けることにもつながりました。地域住民自らが持つ記憶や資料を生かして、主体的に講座を企画・実践できるように、市民センターのコーディネート機能を存分に発揮していきます。